

### 1. 2011年RBK視点のトピックス10

- ① **震災でSCの社会的役割が強く認識される**
  - ・ 緊急避難場所、救護センター、生活必需品の提供等の生活のインフラとしての社会的役割が見直される。
- ② **震災、福島原発の後遺症**
  - ・ 節電、暑い夏対策、風評被害、縫製工場の再開が難航。
- ③ **ルミネから元気を 有楽町店オープン**
  - ・ 銀座の玄関が変わり、脅威の動員力で銀座地区の商業施設も潤う。
- ④ **駅が街になる OSAKA STATION CITY オープン**
  - ・ 大丸の増床に続き三越伊勢丹、ルクアがオープン、日本一豊かな公共空間に。
  - ・ 大阪の商業面積は、過去3年で145%増加、売上は既存で77%。
- ⑤ **本業苦戦の大手アパレルの次の一手は「買収」**
  - ・ 東スタがアルページュ、ローズバッド、オンワードがグレースコンチネンタル等。
- ⑥ **エキナカ、高速SA、空港の時代へ**
  - ・ 成田空港の売上は全国SCでNO1、海老名SAの月坪効は350万円超の断トツNO1。
- ⑦ **SC地域内戦争が激化の時代へ**
  - ・ 二子玉川東急ライズ VS 玉川高島屋S・C、天王寺ミオ VS 阿倍野キューズ VS 近鉄。
- ⑧ **横暴だったイオン、森ビル連合のパルコ買収劇**
  - ・ 買収で企業の文化、DNAは買えません、ましてお客様までは。
- ⑨ **壮大な無駄、アパレル輸入37億枚**
  - ・ 推定、全商品の60%は値引き販売、バーゲン期間の異常な長さ。
- ⑩ **Eコマースは世界規模、世界スピードで拡大**
  - ・ ヤフーオークション売上が7500億円（ファッション関連で30%）。
  - ・ バーグドルフグッドマンでは日本語サイトから買い物ができる時代。

## 2. 絶滅の瀬戸際にある日本の絹

日本の民族衣装である着物の世界では、「正絹」という言葉がまだ、生きています。字のごとく本物の絹100%でできている着物のことです。その「正絹」ですが、着物愛好者はもちろん、成人式に振袖を着る20歳の女性たちも「正絹」は、日本国内で生産された国産の絹だと信じている人がほとんどではないでしょうか。

ところが、実際はそうではありません。絹需要に占める国産の絹の割合は1.0%以下。民族衣装である着物の素材は、実は中国などからの輸入に依存しているのです。「日本の絹」というマークがあります。あたかも国産絹の証明のように思われますが、実は、「国内で染織加工した絹」のマークなのです。原料の生糸は輸入糸です。日本の絹は、かように絶滅危惧種そのものなのです。

日本の絹が「絶滅危惧種」から「絶滅」へと向かっている数字があります。全国の繭生産の40%をしめる群馬県の2011年の繭生産量が100トンを超え、過去最少の90トンに落ち込むことが群馬県の調査で明らかになったのです。この数字はピーク時の実に300分の1。養蚕農家そのものも去年の314戸から260—270戸に縮小する見込みです。

絶滅の瀬戸際にあつて、農水省は2008年度から「蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業」を実施しています。国産繭から純国産の絹製品ブランドをつくる「生産・流通・小売りのグループ」（提携グループ）を結成し、「純国産絹」マークを付けて高く販売することで、繭生産から、製糸、織り編み、仕上げ加工、縫製、小売りまでの各企業が適正利潤を確保して、日本の絹の再生産サイクルを軌道に乗せようとしています。

しかし、関係者の努力にもかかわらず、繭生産の落ち込みが止まりません。その上、農水省の補助事業は2013年度には打ち切られます。そうすると、国産絹は、生糸価格1万5000—2万円で売れる商品を生産・販売しなければなりません。中国産生糸価格は5000—6000円ですから、純国産絹を維持するための競争は敗色濃厚だといわざるを得ないでしょう。

農水省は「提携システム」を最後の蚕糸・絹業対策だと位置づけています。

このままだと、日本の絹文化は工芸分野だけで細々と残るだけになってしまいそうです。

## 3. トルコが対日輸出を加速、狙いはファッション市場

トルコ共和国経済省は11月29日、対日輸出、ならびにトルコへの直接投資を促すため、東京（帝国ホテル）で個別商談会を開催しました。30社の有力企業が商談を進め、日本の貿易関係者と輸出に関する情報収集も行なっています。また同国の対日輸出は、パスタや乾燥果実、食用油など、食料品が大勢を占めますが、今後は繊維・ファッション製品の輸出を強化する考えです。従来は食品が中心だった参加者も、今回はジェノニット繊維産業社、エグム繊維産業社、アイドゥル革製品加工・貿易社など、繊維・ファッション系企業が新たに参加。イブラヒム・シェネル＝トルコ共和国経済省副次官は「欧州の金融危機、中東の政情不安など、トルコの主要貿易国が軒並み厳しい状況に置かれています。日本との取引を増やしたいと、多くの企業が願っています」。地政学的には、経済発展が続く北アフリカや中央アジアにも近い同国ですが、日本からの投資は増えていないのが現状。また、長らくファストファッションの生産地として機能しており、今後はオリジナル性の高いファッションアイテムの生産、輸出を強化する方針です。

今回は、布帛物の提案を始め、ファーやレザーといった定評のあるアウターを日本のバイヤーにアピール。買い付け額は徐々に増えています。欧州地域には“輸出大国”として知られる同国ですが、こと日本ではそこまでの存在感はありません。従来は輸出先に安住しては貿易の縮小は認めず、こうした危機感も対日輸出強化を後押ししています。前出の副次官は「投資に必要な法整備も併せて進めたい」とし、中国に対抗するべく措置を講ずるようです。デザイナーではフセイン・チャラヤン、ディーチェ・カヤックなどを輩出しているトルコ。人口7300万人を抱える同国の平均年齢は29歳と若く、質の高い労働力が期待できます。また同国は世界16位、EU

域内で6位の経済力を誇り、2010年度のGDP（国内総生産）は前年比8.9%増となっています。

#### 4. EXPASA 海老名がグランドオープン（高速道路サービスエリア大変貌）

中日本高速の海老名SAが12月15日に全面改装しました。「1.5日分のマイパートナー」のコンセプトで、ここがサービスエリアか？都心のオシャレなSCでは？と疑うほどの大革新をしました。ファサードも黒ベースのスタイリッシュさで、カッコよさが全面から演出されています。環境面でも女子用トイレにはパウダールームやソファが置かれ、快適空間が広がっています。更に驚くのはテナント構成です。従来難しいエリアだった2階に高速初出店の若者に絶大な人気を誇る「ユナイテッドアローズ」が雑貨中心の新業態を出店、中華料理の巨匠「ワキヤ」が手掛ける「上海DOLL」、1階には世界一面積が小さい「スターバックス」、富士山高原から生まれた最高級のアイスで有名な「イデボク」、高速初出店、富士急電鉄の神奈川、静岡の逸品を集めた「頑固市場」、京都清水寺から近江牛のコロッケ、カレーパンの「キッチン仁々木」、等々選りすぐりの名店が出店し、オープンから大変な人気スポットとなりました。従来のサービスエリアは「トイレ休憩、お土産、食事休憩のさっと寄り、さっと帰る場所」から「わざわざ立ち寄る高感度なSC」へ変わりました。元々、月坪効率が350万円とダントツ日本一の売場が更にヒートアップしました。

これからの高速道路SAに大注目です。

#### 5. NEW YORK NOW 「2つの大きな流れ」

サンクスギビング後のNYに行ってきました。全米小売業の年間売上の30%から40%を、サンクスギビング（第3木曜日）後のブラックフライデー（第3金曜日）からクリスマスまでの1ヶ月で売上げることから、世界からその消費動向が注目を浴びています。今年はスタート4日間で14%増と近年になく好調でした。但し内容的には家電や食品等の日用品が良く、ファッションはそれほどでもない状況でした。百貨店も靴、バッグ、コスメ等は混雑しているものの上層階のファッション、特にラグジュアリー関連は閑古鳥が鳴く状況です。

とはいうものの世界のファッションをリードするNYです。今回の訪問で、NY滞在20数年の友人である遠藤陽子女史から、最近顕著な大きな流れを2点教えて頂きました。

##### ① ヒップスター（メンズマーケット）

今までニューヨーカーは「ゲイ」以外はあまりオシャレでなかった現象に、変化が起き始めました。メンズがオシャレになりました。通常ヒップスターと呼ばれる現象の（クール、かっこいい）メンズマーケットが続々と誕生しています。ファッション、スキンケア、ヘアケア、からインテリアまでトータルのライフスタイルです。ファッションではJクルー、ジョン・バルバトス、サタデイズ、インテリアではABCカーペット内にある、今インテリア家具では断トツの人気デザイナー（Timothy oulton）が編集した男の部屋売場等です。

##### ② アールデコの世界

1920～1930年代の建築様式が今、レストランからファッションまで広く取り入れられ始めています。アールデコの建築といえばエンパイヤー、クライスラー、バーグドルフメンズ館が代表例で挙げられます。このアールデコの流れを2011年春夏NYコレクションの「グッチコレクション」が取り上げ話題になりました。人気デザイナー、アレキサンダーワンやフィリップリムの傾向もよりモードになり、アールデコが基調になっています。レストランもピエールホテルの「LE CAPRICE」やマークホテル、サリーホテルのロビーやトイレ、会議室等々も同様です。

\*ヒップスターとアールデコの流れは確実に日本にも上陸してきます。マーケットの変化の流れを一步早く見ていく為には、NY の日々の変化を定点観測する事が大事でしょう。

## 6. 「米花」

最近オープンしてすっかり話題の T-Place の TSUTAYA。この隣のヒルサイドテラス F 棟の地下にある和食屋「代官山 米花」は白金「心米」が昨年オープンした新店舗です。50 坪にわずか 30 席のゆったりした空間には、カウンター、テーブル、畳座敷の個室があり、人数やメンバーによって好きな場所が選べます。こちらのお料理は「心米」同様、旬の素材を生かした洗練された上品な家庭料理と土鍋で炊いた美味しいお米が特徴です。産地と生産者とどんな感じのお米かの説明が書いてあるメニューには、6 種類の白米が紹介されています。注文を受けてから 1 組ずつ炊くごはんは、つやつやで味があっておかずなしで十分楽しめます。コースの最後にいただきますが、注文した時からできあがり genuinely 楽しみです。お料理は単品でも食べられますが、6800 円のコースがお勧めです。8 種類のお皿の内 3 種類はその日のメニューのなかから好きな物が選べます。まずはスタートの前菜から始まり 2 皿目はここの看板メニューの 1 つ、8 種類の野菜のきんぴらが続きます。そこから野菜や魚や肉と選んだものが運ばれてきます。なんでもまんべんなく美味しいのですが、私のお勧めはハンバーグ。昔からの洋食屋さんの味そのもので癖になる味です。1 皿 1 皿は上品に盛りつけられているので無理なくご飯まで行き着けます。お腹が一杯でごはんが全部食べられない時は、塩むすびにして可愛い小さな手提げ袋に入れておみやげにしてくれます。そんな心遣いも嬉しいものです。ワインも日本で作られる美味しいワインがいくつか置いてありますが、値段の幅とか種類は限られているのが残念です。やはりここで飲むなら日本酒かもしれません。お値段は 1 人 10000 円〜。お腹に優しい本当に美味しい物をゆっくりとした落ち着いた空間で食べたい時にお勧めの和食屋です。

東京都渋谷区猿樂町 18-8 ヒルサイドテラス F 棟 B1F

TEL : 03-5489-7589

営業時間 : ランチ 11:30~14:00

ディナー 17:00~22:00

定休日 : 日・祝

